

CONTENTS

特集

2 心に響くふくしまの  
かやぶき屋根

ふくしまの魅力人

6 矢野目だるま職人 渡辺浩子さん

インフォメーション

8 信夫三山暁まいり

ふくしまのイルミネーション



# 信夫三山暁まいり

平成30年2月10日(土)・11日(日・祝)

## 大わらじ奉納・子どもわらじパレード

とき/2月10日(土)

【出発】午前9時：御山大わらじ作業所

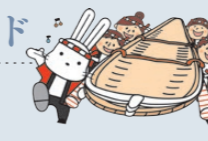
【御山太々神楽 舞の奉納】午前11時20分頃：福島駅東口駅前広場

【奉納】午後3時頃：羽黒神社

※子どもわらじパレードは、護国神社で終了。

※信夫山の奉納順路周辺では交通規制を実施します。ご注意ください。

信夫三山奉賛会（商業労政課内）☎024-525-3720



## 暁まいり福男福女競争

2018年の福男・福女を目指して信夫山を駆け抜けよう！

とき/2月10日(土) 午後7時30分 開会式（信夫山噴水公園） 午後8時 スタート

定員/600人(先着順) 参加費/無料

※詳しくはお問い合わせください。

福島青年会議所まつり継承委員会 ☎024-521-1635

＊ ふくしまをロマンチックに彩る ＊

### ふくしま冬のイルミネーション

20万球で  
ふくしまの街を彩る

とき 平成30年1月31日(水)まで

点灯時間/午後5～11時

ところ/パセオ470、街なか広場、  
福島駅東口駅前広場

光のしずく実行委員会  
☎024-522-4841



### 四季の里イルミネーション2018

園内の約7万球のLEDが  
幻想的な雰囲気演出

とき 平成30年1月13日(土)～  
2月12日(月)

点灯時間/午後5～9時

ところ/四季の里

期間中の毎週土曜日（午後6時30分  
～7時15分）に工芸館でジャズの  
ミニコンサートを開催。

四季の里 ☎024-593-0101



## 市民フォト・ふくしま夢通信

平成30年1月1日発行

2018年1月号 No.32

ホームページもご覧ください ▶ <http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>



ユーチューブチャンネル ▶ ふくしまチャンネル



ツイッターアカウント ▶ fukushimacity



フェイスブックアカウント ▶ 福島市

編集発行 福島市役所 広報課

〒960-8601 福島市五老内町3-1

☎024-525-3710 ☎024-536-9828

E-mail : kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

表紙紹介

厳しい表情で悪を祓う  
福島のだるま

悪をにらみつけて退散させ、福を呼ぶ縁起物なので、初めから目が入っているのが特徴の福島のだるま。一つ一つ職人さんの手描きで仕上げられています。

Winter event information!

## 冬のイベント情報

長さ12m、重さ約2tの日本一の大わらじを担いで市内を練り歩き、信夫山の羽黒神社に奉納します。また、奉納順路の地元小学校7校が、長さ2・5mの子どもわらじを担ぎ、暁まいりに参加します。大わらじと担ぎ手の威勢のいい掛け声で人々を楽しませる福島の伝統行事に、足を運んではいかがでしょうか？



1

寄棟造りのかやぶき屋根では  
東北でも最大級

1/暮らすだけでなく養蚕業を行う作業場を兼ねた住宅は、東側の妻※2を彩光のために切り落とした半切妻屋根となっている。柱と貫※3の格子の黒、しつこいの白壁との対比が美しくヨーロッパの古民家を思わせる佇まい 2/囲炉裏の上部。天井の奥に力強い小屋組の一部が見える。主に米を生産する豪農だったが、昭和10年頃まで養蚕も営んだ 3/冬には雪に包まれ真っ白になる佐藤家



2



3

※写真提供・撮影：佐藤二三男 様



十代当主が明治6年に建築した。梁行6間、桁行12間半、一部2階建て。のべ床面積約330㎡。屋根は、東北地方でよくみられる兜屋根。中央に煙出し用の越屋根（屋根の上に載せた小さな屋根）を配している。平成25年、国登録有形文化財に登録された。中に入ると広い土間があり、さらに進むと囲炉裏の煙でいぶされ黒光りしたケヤキの梁や板戸が出迎えてくれる。3つの和室の襖を開けると38畳にもなる大空間を使って、能や朗読会などを開催したことも

古い家が  
物語る  
まちの歴史

どっしりしたかやぶき屋根を見ると安らぎを感じるのにはなせでしょうか。遠い昔への郷愁がそよそよと吹くのでしょうか。今を生きる私たちが、懐かしい時間に誘ってくれるかやぶき屋根は、明治・大正、さらには江戸時代からの福島の歴史を物語る大切な建物です。一方、生活様式の変化や維持管理が大変なこともあり急速にかやぶき屋根が姿を消してきました。そうした中「茅の葺き方教室」（市教育委員会主催）に参加した有志が1軒でも多くのかやぶき屋根を残していく一助になると、平成29年2月「福島市かやぶき文化伝承会」を立ち上げました。今号では、市内にある江戸時代から平成までのかやぶき屋根を訪ねて、心に響くその魅力を紹介します。

## 国登録有形文化財 佐藤家住宅

築140年  
独特の重みと  
おおらかさが魅力

福島市内で息をのむほど美しいかやぶき屋根と言え、佐藤家住宅です。十代当主がご子息の誕生を記念して建てたという住まいは、当時の養蚕農家の典型として知られる木造寄棟造りですが、まず圧倒されるのがその大きさです。一面芝生の前庭との相性も抜群で、独特の重厚感とおおらかさを保ちながら140年を経た今もどっしりと建っています。

十三代当主・佐藤利男さんご夫妻は、昭和48年からこの家で暮らし始めました。何層にも葺かれたカヤが雨水を軒下まで伝えるので、室内に雨水は入りません。音も吸収するので静かです。風通しも良く夏は涼しいのですが、冬が寒いことから現在は離れに住み、こちらは来客用として使っています。かやぶき屋根は、維持管理に大変な費用がかかります

が、佐藤さんはこれまでに3度の大きな補修を行ってきました。囲炉裏から出る煙がカヤを長持ちさせる効果があるため、冬になるとほぼ毎日火をたいていそうです。他にも時々開催される見学会にも協力しています。年配の方々がかやぶき屋根で昔を思い出し、元気をもらって帰る様子に、将来の活用が見えたとも話してくださいました。「かやぶき屋根には人を元気にする力があるんですよね。ここを近隣の年配者が集まれる憩いの場所にしようと準備を進めているところです」と佐藤さん。何と素敵なプランでしょう。これからの展開が楽しみです。



福島市泉字清水内3 公開(要事前申し込み)  
福島市文化課 ☎024-525-3785



福島市田沢字寺ノ前（桜台経由医大行き「寺ノ前」バス停、駐車場完備）公開  
 田沢地域活性化推進協議会  
 ☎024-548-4039（会長：丹治宅）



平成生まれの  
 ほっこりかわい  
 かやぶき屋根

長秀院参拝者駐車場

平成29年3月、宿根草を主体に季節の花とハーブが楽しめるナチュラルガーデン（約2,000㎡）の一角に完成した東屋



木材は寄付、市内の建設会社と大内宿の屋根葺き職人の皆さんの協力で完成した東屋。伝統工法による木組み、職人の手で切り揃えられたかやぶき屋根の美しい軒は見事

福島市田沢地域活性化推進協議会の皆さんが事業の1つとして取り組んできたのが、地区の中心部に完成した東屋です。ナチュラルガーデンのシンボルとなる東屋は、昔懐かしいかやぶき屋根にしたいと、昔の農村では当たり前であった地域の助け合いの精神「結い」を復活させ、カヤ刈りから田沢地区一丸となって完成を目指しました。「足かけ4年。カヤ刈りと屋根葺きには苦労しました。地域に根付く結いの精神を次世代につないでいきたいと思っています」と同会会長の丹治庄衛さん。東屋ができるから花を愛でにくる人が増えているそうです。季節の草花に囲まれて、かやぶき屋根の下で一息ついてみませんか。

## 長秀院 ナチュラルガーデン 東屋 長松亭

四方葺きおろしの真新しい  
 かやぶき屋根をのせた東屋ができました



（特集）心に響くふくしまのかやぶき屋根

江戸時代から  
 変わらない奇跡の風景

礼堂・中堂・奥之院からなる観音堂。建て物に威厳を持たせる唐破風と千鳥破風を入母屋造りの礼堂正面に設けている



1/大仏様木鼻。獅子鼻と猿鼻を対に礼堂軒下の左右にある。木鼻は木の先端という意の「木端」が転じたもの 2/四季の草花をモチーフにした50枚の格天井がある礼堂。大福寺観音堂も奈良の興福寺南円堂も三十三観音第9番札所というご縁で明治14年、地域の人々が奈良を詣でた様子を描いた額も奉納されている



福島市大笹生字中寺5  
 公開（建物内部の見学はお問い合わせください）  
 大福寺 ☎024-557-6215

## 大福寺観音堂

大福寺観音堂は福島市西方のフルーツライン沿いにあり、江戸時代から地域の人々の安寧を祈り続ける古刹です。

信達三十三観音第9番札所「鯉返り観音」として親しまれてきた大福寺観音堂は、江戸時代中期の建物と言われています。観音堂は一般的に単独の建物ですが、こちらは神社の拝殿・幣殿・本殿を思わせる構成で神仏習合の名残りがうかがえます。三方（礼堂の正面と両脇）に破風を配した、この珍しい形状のかやぶき屋根は、県内ではこちらの礼堂だけになってしまったそうです。正面の唐破風は、屋根に積もった雪が唐破風の中央から左右に分かれて滑り落ちることから、参拝者を守るという機能もあるとか。住職の熊坂祐弘さんは、長く維持していきたいと願いつつも頼りにしてきた屋根葺き職人の方が一昨年亡くなられたこともあり、先々を思い悩むときもあるそうです。「五穀豊穡、火伏、縁結びと地域の皆さんが心のよりどころとしてきた場所ですので、なんとか維持したいと思っています」と熊坂さん。協力の輪が広がりますように。



歴史ある建物を  
 市民の力で  
 残していく



福島市かやぶき文化伝承会  
 会長 渡部 司 さん

## かやぶきという文化の継承

以前、福島市民家園のかやぶき屋根を見たお子さんの「ハリネズミみたいでかわいい」という言葉が忘れられません。古い建物は、人の心を素直にさせる何かを持っているようです。これを残していくためには技術が必要と、会を昨年立ち上げました。かやぶきは、カヤの刈り方や結び方一つとっても特別な方法があり興味がいけません。深く学びながら市内に所在するかやぶき屋根の修復、維持管理などに尽力できるような会に育てて行きたいと思っています。

※1 その昔、八反川水源の湧水に正観音を祀り開基創建されたお堂の周辺で、川を上ってきた鯉が観音様のご威光のため引き返したことに由来する。  
 ※2 破風…切妻造りや入母屋造りの屋根の妻の三角形の部分。

# 魅

# 力人

みりよくびと

Shiroko Watanabe

縁起物として人々に親しまれ、サイズが小さくなると愛らしさも漂うだるま。中でも福島のだるまは、鮮やかな赤とカッツと見開いた目で家の中に入り込もうとする不幸を退散させると言われる縁起物です。渡辺浩子さんは、和紙の里、二本松市上川崎で生まれ育ち、結婚して福島市へ。以来、農閑期の副業として福島のだるまを作り続けている職人です。ご自宅を訪ねてだるまの歴史と魅力、職人としての生き方を伺いました。



### 矢野目だるま職人 渡辺 浩子 さん

昭和27年、二本松市上川崎生まれ。昭和49年、福島市南矢野目のだるま職人・渡辺英雄さんと結婚。以来、冬になると家族でだるま制作に励んできた。平成5年、夫が急逝。以後、一人でだるまの制作を続けている。だるま好きが集まる同好会「全日本だるま研究会」会員。



### 出店予定日

平成30年  
1月27日(土)・28日(日)  
「黒岩虚空蔵尊例大祭冬祭り」  
黒岩虚空蔵尊満願寺  
(福島市黒岩字上ノ町43)

平成30年  
2月10日(土)・11日(日・祝)  
「信夫三山暁まいり」  
護国神社  
(福島市駒山1)

## 時代が変わっても 私は伝統を守るとい う生き方を貫きます

福々しく丸々とした形の方が好まれるので、江戸時代の木型は使っていません。ただお客さまの中には、スマートフォンでだるまを好まれる方もいらっしゃるの、私は大正と昭和の両方の木型を使っています」と渡辺さん。



矢野目だるまの木型。右から江戸時代、大正、昭和とふっくらとしていく様子分かる。サイズは3寸(10.6cm)から3尺(90.9cm)まである。手前は起き姫の木型。1つで2体できる

### 約500個、一人で一気に作る 師走は文字通り超多忙

渡辺さんのだるま作りは、12月初旬から始まります。①和紙をのりで貼り合わせてから木型に貼り付ける②天日で乾かす③木型を抜いて膠で切れ目を閉じる④下地の胡粉を塗る⑤絵付けという作業を、今は一人でこなします。歳の市に間に合うよう400〜500個を一気に作るの、師走は文字通り多忙を極めるそうです。

「工程が一番難しいのは目入れですが、顔料の調合も難しい」と渡辺さん。「膠ひと鍋に対して赤い顔料を

どれくらい入れるかとか、夫や先代のおじいちゃんたちが調べていた時の記憶をたどりながらやっています」。ふりや顔料など、年々入手が困難になってきている材料もあるそうですが、渡辺さんは受け継いだ通り忠実に制作しています。「最近、かわいらしいだるまグッズがいろいろ生まれれています。でも矢野目だるまは、矢野目だるまのまま、変わらずにこれからもこのスタイルを貫くつもりです」。あくまでも伝統を守るという生き方を選んだ渡辺さん。一つ一つ手描きで仕上げている渡辺さんのだるまには、厳冬の威厳と冬晴れのようなすがすがしさが漂っていました。

### 江戸末期から大正・昭和と 福島のだるまの変遷をたどる

かつて福島市内には「飯坂だるま」「瀬上だるま」など、地名を冠しただるまが複数あり、市内や周辺で開かれる歳の市などで売られていました。しかし、それも年々減少し現在は渡辺家の「矢野目だるま」と、村田家の「丸子だるま」だけになってしまったそうです。

渡辺家のだるまづくりは、1845(弘化2)年から始まりました。「先代と先々代は自分で木型を彫っていました。江戸時代から昭和までの木型を並べると少しずつ変わってきたことが分かりますよ」と渡辺さん。早速見せていただくと、江戸時代の木型は細身で座禅する達磨大師のように厳しい表情をしています。大正、昭和と時代が進むにつれてボディが少しずつ丸くなり、表情も少しだけ厳しさが取れます。「今は、



福島のだるまと一緒に江戸時代から作られてきた。高さ約7cm。底の部分に重りが付いており、倒すと起き上がる。東北地方は、かつて養蚕が盛んだったことから良い繭ができるようにと神棚に飾った。現在では無病息災の縁起物の紅白人形として伝わっている

### 矢野目だるまの特徴

祓魔招福の縁起物。邪気を払うと言われる赤い色の胴に日本で吉祥とされている鶴と亀、松竹梅が顔に描かれている。悪をならみつけて退散させ、福を呼ぶ縁起物なので初めから目が入っているのが最大の特徴。やや縦長のボディ、平たい頭頂部など三春だるまとの共通点が多い。平成9年、渡辺家と村田家の2軒で福島県伝統的工芸品「福島だるま」と指定された。



※宝珠(ほうじゆ)といわれる宝の玉の中に「福」の文字が入る。

※1 膠…獣・魚類の骨や皮などを石灰水に浸して煮て濃縮し、冷やして固めたもの。接着剤として用いられる。  
※2 胡粉…貝殻を焼き、砕いて粉末にした白色の顔料。